

ニューカッスル大学

The Faculty of Medical Science, Newcastle University



●学部学生 18,600人 ●大学院生 6,400人 ●教職員 3,480人
ホームページ <http://www.ncl.ac.uk/>

交流協定締結年月日：2020年6月5日 主管学部：医学部



<https://www.ncl.ac.uk/who-we-are/facilities/>より抜粋



<https://www.ncl.ac.uk/study/campus/#library/>より抜粋

国際交流の特色

ニューカッスル大学は、1834年に設立された医学・薬学大学から発展し、現在は総合研究大学として北部イングランドを代表する有名大学となっている。同大学はイギリスの大学でトップ20位にランキングされており、特にイギリス大学ランキング誌The Virgin Alternative Guideにおいては、学生の満足度が非常に高いと評価され、全英トップ10にランクインしている。またその他大学評価機関には「英国で最もフレンドリーな大学」(Friends Reunited Reunion)「英国で最も成功した大学」(The Guardian University Guide)など高い評価を得ている総合研究大学である。医学部のカリキュラムも大変充実しており、1992年から学部学生の派遣を続けており、医学部学生にも、ますます人気のプログラムになっている。

交流実績（平成31年度～令和2年度）

年度	H31	R2
受入・派遣		
学生の受入	0	0
学生の派遣	4	0
研究者・職員の受入	1	0
研究者・職員の派遣	0	0
オンライン交流参加者（本学）		0
オンライン交流参加者（相手機関）		0



<https://www.ncl.ac.uk/study/campus/#library/>より抜粋

教員からの声

ニューキャッスル・アボン・タインは、イングランド北東部に位置する北部イングランド最大の都市です。ニューキャッスル・アボン・タイン大学は、1963年にダラム大学から分離した総合都市大学であり、イギリスのトップレベルの研究型大学19校で構成するラッセル・グループのうちの一枚で、国家レベルでの政策決定などにおいても重要な役割を果たしている大学です。

医学科では、コーディネーターの Matthias Schmid先生のアレンジのもと、医学実習Ⅱの一環として毎年4～5名の学生を4月～6月の6週間、臨床研修に派遣しています。現地では通常2週間×3科をローテーションしますが、患者さんの診療に加えて、英国の医師や看護師、同じく臨床実習に参加している現地学生との交流によって、かけがえのない経験を積むことができます。特に令和元年度にはSchmid先生に来日いただき、いくつかの講義に加えて、在校生や過去に同大学に留学した多数のOB・OGを集めて先生を囲む会が開催されました。また、令和2年6月には香川大学医学部とニューカッスル大学医学部間によりやく部局間交流協定が締結されました。現在はコロナ禍の影響で人的交流が停止せざるを得ない状況ですが、一刻も早い交流再開を望んでいます。

医学部国際交流委員会委員長・教授 和田健司

学生からの声

英国の医療の実際に触れ、他国の医学生と共に実習できる貴重な機会です。自身の力や日本の医療が世界の中でどのレベルに位置しているのか考えられるようになる、視野を広げることにつながる実習だと感じました。望めば様々なことにチャレンジさせてくれる、学生の進取性を重んじる実習内容となっていました。

2019年派遣学生 横山誓也

海外が好きという憧れだけで留学に応募しましたが、実習もそれ以外の時間も充実した1ヶ月半を過ごすことができました。先生たちはとても親切で学生の要望を実現しようとしてくれる為、留学中の医学実習では問診・聴診・神経診察に加え、静脈採血・ルート確保・橈骨動脈穿刺・経鼻胃管挿入などの手技を経験することができました。憧れの環境で楽しいことをやる6週間、少しでも悩んでいるなら挑戦してみてください。

2019年派遣学生 仙田敬大